

働き方改革関連法の2019年4月の施行で、日本人の働き方はどう変わるのだろうか。
安倍首相が強調したように「非正規雇用を過去のものに」できるのか。
日本と同じように正規・非正規構造が生まれたドイツとの比較を通じ、
小売や介護分野を含めた正規雇用・非正規雇用の過去・現状・未来を考える。

国際シンポジウム

正規・非正規の構造変化 と雇用の未来

日本とドイツの比較から考える

参加費
無料
通訳付

日時

2019年3月3日(日)

14:00-17:00

会場 筑波大学東京キャンパス 119室
(丸の内線茗荷谷駅(出口1)より徒歩5分)

報告者

田中 洋子 (筑波大学人文社会系教授)



ハルトムート・ザイフェルト
(経済社会研究所(WSI) 前所長、
労働政策研究・研修機構海外情報協力員)



ヴォルフガング・シュレーダー
(カッセル大学社会学部教授)



三山 雅子 (同志社大学社会学部教授)



司会 : 山田和代 (滋賀大学教授)

主催 : 筑波大学研究基盤支援プログラム (研究代表者 : 田中洋子)
共催 : 筑波大学人文社会国際比較研究機構、筑波大学ボン・オフィス
後援 : 日本ドイツ学会、社会政策学会 非定型労働部会 ジェンダー部会
協力 : フリードリヒ・エーベルト財団、ドイツ日本研究所

連絡先EMAIL tanaka.yoko.ft@u.tsukuba.ac.jp